

【滝】

瀑布 男滝 女滝 滝見

滝が季語になったのは近代である。滝のある場所の特徴に応じて滝の型が生まれた。湧水が崖から吹き出している湧水型、熔岩流の堰き止め湖の出口にある溶岩遮断型、地震断層のずれによる断層型、浸食で川底の岩盤が出た浸食型などがある。滝を見るととき周囲の状況と関連させて、形成過程に想いをはせると楽しみ方が豊かになる。また、滝の形では直瀑、分岐瀑、段瀑、潜流瀑、溪流瀑、海岸瀑というように特徴が表現される。漢字圏では文字を見るとその由来がわかる。

溪流の中で最も激しい流れが滝で、川の途中に滝があると、下流の流れを滝の分だけ緩和することになり、洪水対策の上で滝はありがたい存在である。世界有数の急流で知られる常願寺川にある称名滝は、日本一の落差三五〇メートルで知られる。

滝に暮らす動物は、吸盤を持つ虫などに限られている。鮎などは流れを遡上するが、大規模な滝で阻まれると魚の分布域が左右される。鰻は滝の側壁を這い登り、葦登は吸盤で吸い付きながら鉛直の壁を登る。

滝の近くには高い湿度に向く植物が育つ。シダ類や苔類の他にも、虎杖、延齡草、大文字草など、滝の近くには植物の季語も目につく。滝の周囲の動物や植物にもぜひ観察の眼を向けてほしい。